

本郷 新 (1905-1980)  
戦後日本の具象彫刻を代表する彫刻家であり、記念像・野外彫刻の先駆者。札幌出身。1928 (昭和3)年高等工芸学校(現千葉大学工学部)工芸図案科工芸彫刻学部卒業後、高村光太郎に師事。代表作:戦没学生記念像「わだつみのこえ」(1950)、「嵐の中の母子像」(1953)など。  
(写真提供:本郷新記念札幌彫刻美術館)



## 「奏でる乙女」像 平和と復興のシンボル アートな麻布に魅せられて⑦



「奏でる乙女」ブロンズ像(本郷 新)

六本木交差点の待ち合わせスポットで有名な「アマンド」の出店は1964 (昭和39)年。さらに遡ること10年。1954 (昭和29)年より、交差点内でギターを奏で続けている少女がいる。終戦直後、平和と復興のシンボルとして制作された彫刻「奏でる乙女」(本郷 新)である。



六本木交差点  
土地区画整理事業完了当時の六本木交差点付近。当初「奏でる乙女」像は道路中央のグリーンベルトに設置された。(写真:港区史上巻より)

### 麻布住民の意思を反映した復興事業完了の記念碑として

終戦直後の1945 (昭和20)年、住民有志が「麻布第一復興土地区画整理組合」を立ちあげ、戦災復興都市計画の実現を図った。広い道路や緑地等の公共地確保に向けた既存建物の移転、それに伴う補償交渉、ガスや水道等生活インフラの整備…難事業であったことは想像に難くない。9年間に及んだ町の区画整理事業完了の記念碑として「奏でる乙女」像が建立された。1954 (昭和29)年4月のことである。

### 仮住まい先での悲劇と再建

1962 (昭和37)年には地下鉄日比谷線工事のために「奏でる乙女」は近隣の三河台公園へと移転され、表舞台である交差点から姿を消した。さらにこの公園の片隅で、いつのまにか腕やギターの部分が壊されてしまうという悲劇に見舞われてしまう。しかし、関係者の熱意と協力によって堅牢なブロンズ像(当初はセメント製)として1975 (昭和50)年に再建

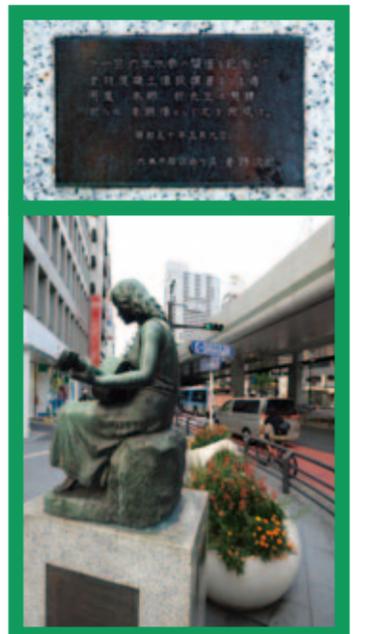
され、晴れて六本木交差点に再度設置された。再び時は流れ1990年代後半になると都営大江戸線の工事の為に再度お蔵入り。現在の場所に再々設置されたのは2000 (平成12)年12月12日のことであった。六本木地区の度重なる開発に翻弄された半生であったが、昨年無事に還暦を迎えた「乙女」であった。

### 「凍った音楽」、何を奏でているのか。

制作者の本郷 新は「彫刻の美」という彫刻論集も残した。その中の一節。

「建築は凍った音楽である」という言葉があるが、彫刻もまた凍った音楽といえるのである。(中略)建築や彫刻では、律動が凍っていて、消え去ることなく、見る人の温かい心にとかされて美しく動き出すというのである。(「彫刻の美」p50より)

慌ただしく人が行き交う中、時には乙女と向き合い、平和を奏でる音楽に想像を逞しくしてみたいかがであろう。



(上)彫刻の台座の銘板には、「第一回六本木祭の開催を記念して素材混泥土像毀損著しき為再度 本郷 新先生に懇請新たに 青銅像として之を完成す。昭和五十年五月九日 六本木商店会々長 青野次郎」と記されている。  
(下)車道に背を向けて設置されている。



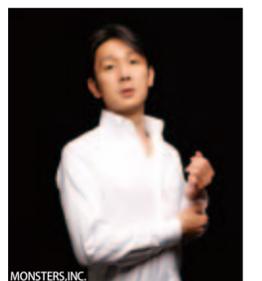
おじい様(故 本郷 新さん)に抱っこされる弦さん

にすることができて良かったと思います。ギターを抱えた姿は、文化を享受する事の出来る平和な世の中を希求し、静かに、柔らかに、祈りを捧げているように感じます。この作品との繋がりを聞いたことはありませんが「弦」という名前は祖父の命名です。」

本郷 弦さんは現在、俳優業の傍ら公益財団法人札幌市芸術文化財団の理事として芸術文化の普及・振興に努めていらっしゃいます。

### 制作者の孫にあたる俳優の本郷 弦さん(無名塾所属)にお話を伺いました

「交差点の像は当初、車道に向かって建てられる予定でしたが、交通量の多い交差点で『作品に気を取られて交通事故がおきては困る』との事で道路に背を向けた形の設置になったようです。待ち合わせや往来の人が目



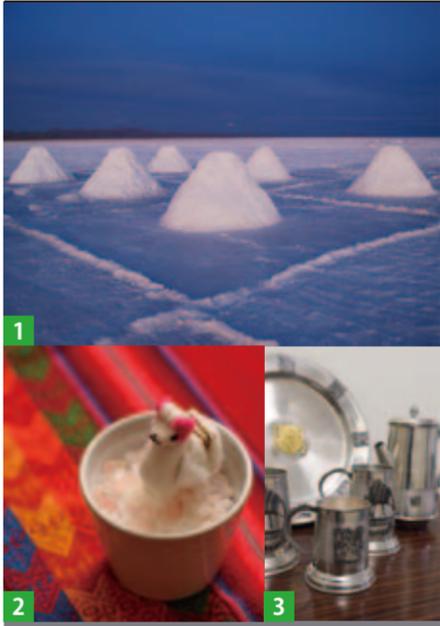
本郷 弦さん

建立当時とは様変わりした六本木交差点周辺。頭上の首都高速3号渋谷線1964 (昭和39)年開通。その背後の六本木ヒルズは2003 (平成15)年開業。

●取材協力/本郷新記念札幌彫刻美術館

●参考文献/「彫刻の美」本郷 新(中央公論美術出版)「おやじとせがれ」本郷 淳(求龍堂)「港区史」(港区役所)「六本木」柴田清太郎編(麻布第一復興土地区画整理組合)

(取材・文/大村美子)



ボリビア多民族国

面積: 110万平方キロメートル(日本の約3倍)

人口: 1,005.9万人(2014年7月 国家統計局)

首都: ラパス(憲法上の首都はスクレ)

元首: エボ・モラレス・アイマ大統領

議会: 二院制(上院36名、下院130名)

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bolivia>

ボリビア多民族国

エリック・サアベドラ特命全権大使

Erick SAAVEDRA

取材協力/ボリビア多民族国大使館

大使を訪ねて 32

## 麻布の"世界"から



## Bolivia

## 古くて新しい 躍動する国の情熱を伝えたい

南米大陸の真ん中に位置するボリビア。数千年の歴史を持ちつつ、自らを若い国と称する。そんな新生ボリビアの、約1,000万の人口の平均年齢は何と33歳！それにふさわしく、2014年9月に就任したエリック・サアベドラ(Erick SAAVEDRA)特命全権大使(以下大使と表記)は38歳。若さ溢れる、ビジネス界出身の大使に、新しいボリビアについて語ってもらった。

## 日本を身近に思う国

日本ではあまり馴染み深いとは言えない国だが、「私たちボリビア人は、日本にとっても親近感を持っています」と、大使。

太平洋戦争後の沖縄からの移民が定住し、その名もOKINAWAという街を築き、昨年(2014)、市の創立60周年を祝った。日本を身近に感じる理由は他にもある。日本人から大豆の栽培を習い、今や輸出品の4位にまでなった。栽培のみならず食べ方も日本流を踏襲、煮豆や豆腐が、ボリビアの家庭料理にも普通に登場する。更に街を走る車の8割が日本車、日本製の腕時計を身につけ、テレビ・パソコンも日本ブランド。マンガやアニメで子どもの頃から日本に触れているのだ。

## 40回以上の訪日経験を生かして

日本車の販売会社を経営していた父親の勧めで、大使は大学卒業後、日本の自動車会社にインターンとして入り、以来40回以上の来日を重ねた。大使として着任した当初は麻布十番に暮らし、すっかりこの街のトリコに。

「十番の魅力は美味しいレストランが無数にあり、なんでも手に入れ易いこと。本当に便利な街で大好きです」。現在、引越してしまいましたが、3人の子供を連れ、十番で食事をしたり、広尾や目黒辺りまで散歩

を楽しんでいる。

日本食で好きなものを尋ねると、「あまりに多すぎて答えきれないです」とのこと。「強いて挙げれば、納豆、手羽先、鰻…」との答えから察するに、日本食の大ファンであることはもちろん、相当な食通のようだ。

また、大使着任以来10カ月で日本各地を精力的に回っている。日本文化を強く感じられるところに惹かれ、京都、三重、石川などが特に印象深いという。

## ボリビアの歴史と今後

先史文明が栄え、インカ文明、スペインの支配と独立を経て今日に至るボリビア。アンデス高地と谷のエリア、そしてアマゾン上流の低湿地帯と、その国土は広くて多彩だ。

10年前のモラレス大統領の登場で、多様な民族の文化や暮らし、存在を尊重しようとの気運が高まった。国名も「ボリビア」から「ボリビア多民族国」と改めたのも、その一端だ。

社会主義ではないが、貧困の撲滅を目指し、弱者への援助が厚い。「人への投資を惜しまず、社会や経済に貢献できる人を作る。多くの若者がボリビアドリームを目指せるような国づくりをしている」という。その一助となっているのがリチウムを代表とする地下資源だ。リチウムは硝子、陶器など窯業で使用されるほか、携帯電話など携帯用電子機器にも使われる。ウユニ塩湖の湖底一帯は世界一の埋蔵量を誇る。今後400年採掘が約束されている。「近い将来、我が国の輸出のナンバー1はリチウムになります。」と、大使の発言も力強い。古くて新しい国の所以だ。

## “天空の鏡”Uyuni (ウユニ) 塩湖のみならず

ボリビアで最も有名な観光名所はウユニ塩湖だ。大使によるとベストシーズンは南半球の夏、11月から1月だそうだ。「日中の湖面は鏡のように光り、夜は夜で空

4

と湖の境が無くなり、星が足元にまで映ってまるで宇宙を歩いているような気分になる」という。

その他の大使お勧めの観光スポットは、南部アルゼンチンとの国境近くで葡萄の産地TARIJA (タリーハ)。ここにはJICAの支援を受けた天文台が設置されているだけあって星空は最高だとか。もちろん、ワインにアルゼンチンビーフも外せない。冒険好きの方にはアマゾン地域にあるROBORE (ロボレ)。ここはアマゾン川に沸く温泉がお勧め。アナコンダやワニといった野生動物が近くに生息するものの、温泉が熱いのでそこにだけは近寄らないので安心というのだが…。

ぜひ日本からボリビアに行ってみようという方に、大使が秘策を教えてくれた。入管や通関で手間取るアメリカ経由で行くと30時間強かかるが、フランクフルト経由サンパウロ乗り換えにすると24時間で到達できるのだそうだ。

地球の反対側で遠い国とばかり思っていたボリビア。今回、多様な文化の中に「日本」もしっかりと根付いていることを知った。新しいボリビアの情熱を知ってほしい、と熱く語る大使のパッションに魅了され、いつか一度は訪れてみたいと切に思った。

1 ウユニ塩湖。幻想的な冬も魅力的。

2 岩塩と岩塩でできた動物。

3 銀食器。

4 標高3700mにある岐阜県ほどの面積のウユニ塩湖。雨季に冠水すると巨大な鏡と化して見るものを魅了する。

5 ルレナバク。アンデス山脈の東にはこうした低湿地帯が広がっている。

6 世界遺産遺産の街 旧都スクレの街並、多民族国の憲法上の首都。

7 インカ文明ティワナコの遺跡。

8 ウィファラと呼ばれる国旗に準ずる正方形のパッチワーク模様の旗。アンデス地方の先住民の旗に起因するが、36の民族の団結を示すシンボルとして、主に国内で掲揚されている。赤が大地、橙が文化、黄はエネルギー、白が時間で、緑は農産物、青が宇宙で紫が政治思想と夫々の色は奥深い意味を持つ。



(取材・文/出石供子、高柳由紀子)



**みのやまクリニック**  
 理事長  
 みのやま あきはる  
 箕山 昭陽さん

内科医。専門は消化器、特に肝臓疾患全般。  
 2000(平成12)年より麻布十番で開業。  
 超音波や胃カメラ検査等の施行による  
 早期診断・早期治療を目指している。

みのやまクリニック  
 港区麻布十番1-7-9酒井ビル4F  
<http://www.mino-cl.com/>

## 患者さん一人一人と話せる 街の開業医

今回は麻布十番にある「みのやまクリニック」に伺いました。麻布学園の中学2年生3人が箕山院長取材しました。



患者さんとして向き合う診察を再現する院長とジュニア編集員。



子どもに生きていく力を

# KIDS! ハローワーク

親子で  
読んでみよう



ひと言も聞き漏らさないよう、集中してインタビュー中。



子どもを診察する際は、不安を取り除くために「おもちゃの様な色(赤い方)」の聴診器を使うそうです。

### ◎医者になるきっかけは何でしたか。

私の父親も医者でした。父には憧れの対象である医学博士がいて、その方は「命はみな平等だ」ということに気づいた方です。私は父から、将来はその博士のような医療をするように言われました。そこで私も「その博士のように」と目指し、医学部に進学して父と同じく内科医になりました。

### ◎なぜ開業したのですか？

開業する前は大学病院に勤務していました。そのときは、ほとんど癌の患者ばかりをみてきました。その結果、何千人もの亡くなる姿に立ち合ってしまう、医療の限界を感じました。そのため、私は癌になってからではなく、皆さんが健康のうちに早期発見をしたいと思いました。また、色々な病気や悩みに対応しながら、クオリティ・オブ・ライフ、つまり生活の質を上げた方が良いと思うようになりました。

### ◎街中で開業したのはなぜですか？

みなさんもご存じと思いますが、大きな病院ですとかかなり待たされたりします。やっと診察するときも、パソコンに向かってデータ入力しているだけで、話などもあまり出来ないところが多いです。私にはこのようなスタイルは合わないと思いました。そのため、小さなクリニックにした方が患者さん一人一人とゆっくり話せるし、あまりお待たせせずに済むので、街中で開業しました。

### ◎なぜ始めから開業しなかったのですか？

やはり、最初は大学病院で経験を積んだ方が、技術も身につきますし、医療に対する考え方がしっかりできます。病院では助け合いができますが、開業後は全て自分一人で行うため、ある程度の知識や腕は必要ですね。

### ◎この仕事をして分かったことを教えてください。

当たり前のことですが、健康な人も病気の人でも命は平等で大切なものだと思います。もっと言えば人間以外の生物も命が平等だと思います。例えば、家に虫が入ってきて、害虫だとしても、この仕事をしていると殺せなくなりますね。皆さんにも、命の平等や尊さをわかって、これからの人生を過ごしてほしいと思います。



(取材・文／足立一騎、齋藤裕真、原野雅也 取材サポート／大村公美子)

## 地域社会のゆくえ

### 認知症の人と家族をやさしく支える「みんなとオレンジカフェ」に参加して

皆さんは「みんなとオレンジカフェ」をご存知ですか？認知症の人と家族、専門家、地域の人たちが集い、情報交換し、憩える場所で、南麻布4丁目の「ありすの杜きこの南麻布」のカフェの一角が会場になっています。どんなところが気になって、7月のカフェに参加しました。

#### 医療機関と連携するのが港区のカフェの特徴

現在65歳以上の認知症の人の割合は7人に1人。団塊世代が後期高齢者となる2025年には700万人、5人に1人となるといいます。認知症はもはや他人事ではない時代なのです。厚生労働省は2013年に認知症対策「オレンジプラン」を策定、15年1月には新たに国家戦略として「新オレンジプラン」を公表し、地域ぐるみで支える制度の一つとして「認知症カフェ」の普及をうたっています。港区では14年5月から設置が始まり、現在は5地区で月に1回のペースで開催。認知症の早期発見、対応と防止に重点を置き、医療と連携し医師が参加するのが、他区と比べての特徴です。

#### 癒し、アドバイス、情報を得られる、気軽な場所

麻布の「みんなとオレンジカフェ」がオープンするのは、毎月第2水曜日の10時から16時まで。

予約は不要で、200円の費用を支払って好きなだけいられます。NPOエブリィの4人のスタッフが常駐し対応。途中、さをり織りや、和紙の折り紙、アロマの体験をしたり、専門家によるミニ講座を聴く時間帯もあります。代表の國松恵さんによれば、「来場者は一日平均して15人前後。自ら認知症だと言う人もいらっしゃいますよ。この雰囲気が開放的なこともあって、皆さんリラックスできるようです。」また、医師の佐々木央我さんは「こんな症状は認知症では？とか、日常の中での困り事を気軽に相談してほしいです。早期診断、治療につなげ、よりよい生活をするための力添えができれば。」と、カフェの役割について語ります。

#### カフェが一般的なコミュニティになる日を期待して

来場者の声もお聞きしました。80代一人暮らし、軽度の認知症の女性は、リピーターとのこと。「ここはおしゃべりができて楽しい。着てくる服を



1階の外に面した「ニュートゥモローカフェ」内にてオープン。カフェのある日はのぼりが立ちます。

考えることで脳が活性化される気がします。一人暮らしの高齢者が増える時代、こんなコミュニティはますます大切では。」また、夫が若年性アルツハイマーを発症し、10年来、介護生活を送る50代の女性は、「自分が介護ウツになった経験から、介護される側だけでなく、する側のサポートの重要性を痛感しています。」

自分や家族の認知症のことが気になるけれど、誰にも言えず悩んでいる、病院の受診もためらわれる。例えば、今、そんな状態にある人は、カフェを利用すると道筋が立つかもしれません。また、カフェがもっと地域に根差していけば、認知症への戸惑いが少なくなり、健常者との隔ても薄くなっていくのではないのでしょうか。國松さんの、「『私、もの忘れがあるからお願いね』と互いに言い合える、道端で不安そうにしている人がいたら普通に声がけができる、そんな社会が自然だと思います」という言葉に、心から共感しました。

#### ●お話を伺った方

- 港区 保健福祉支援部 高齢者支援課 介護予防係 保健師 野村まゆみさん
- 特定非営利活動法人 エブリィ 國松恵さん
- 医療法人社団きのこ会 エスポアール東京クリニック 内科 神経内科 精神科(認知症診療)医師 佐々木央我さん
- 一般社団法人 アーツアライブ 代表理事 林容子さん
- 北里大学北里研究所病院 精神科部長 准教授 高橋恵さん



一般の人でも利用する店舗の中なので、リラックスした雰囲気でお話ができます。



参加者に配布される手帳と、エコバッグ。

#### 7月のプログラムより

##### ●絵を見ながら自由にトーク

アーツアライブによるACP(双方向性アート鑑賞プログラム)。認知症の人や家族が、絵画を見ながらシーンを想像したり感想を語り合うことで、脳に刺激が与えられ、コミュニケーション力が高まる効果が期待できるそうです。欧米の福祉の現場では広く普及している手法とのこと。(アーツアライブのHP [www.artsalivejp.org/](http://www.artsalivejp.org/))



##### ●医師と語り合う

北里研究所病院精神科の医師を囲んで。医師による「認知症の基礎知識」のミニ講座を聴いたあと、疑問点や不安なこと、これからの介護のあり方などを、皆でディスカッションしました。



# 特別編集

# ザ・AZABUので

## 完成までの道のり、すべて見せます！

### 編集会議

麻布地区総合支所にて  
18時30分スタート



1年に4回発行しているザ・AZABUの編集会議は、1号につき、企画会議と校正会議の2回。麻布地区総合支所の会議室に、編集委員、支所の職員、及びデザイン・印刷を委託している廣済堂の編集担当者が集まります。編集委員は30代から70代まで様々な年代層です。一人では思いつかないことも、皆で相談すれば、次から次へと様々なアイデアが生まれます。和気あいあいとした雰囲気です。20時の終了予定時刻を過ぎてしまうこともしばしば。

### 取材

大使館や新しい施設etc...  
追求したいテーマへGO!  
(32号の取材シーンより)



#### 地域社会のゆくえ 地域の防災対策

支所の打ち合わせコーナーにて、地域の防災対策について区の防災課や協働推進課の職員に、資料を見せてもらいながらじっくりと取材。あらためて、災害への備えの重要性を認識しました(右上)。その後三河台公園に向き、防災用の井戸のロックを外し水を出すところを、プロのカメラマンに撮影してもらいました(右下)。

#### 大使を訪ねて 麻布の“世界”から ハイチ共和国

ハイチ共和国大使館にて、ジュディト・エグザヴィエール臨時代理大使にインタビュー。通訳スタッフも同行するので、言葉の面でも安心です。ガイドブックではわからない国の情報や、大使のプライベートライフまでお聞きできる貴重な機会です。

#### 表紙 麻布山善福寺のイチョウ

麻布の住人にはなじみの深い、善福寺の逆さイチョウの前で。取材を通し木の辿ってきた歴史を認識したうえで眺めれば、その力強い生命力に深い感動を覚えます。

### 校正

取材を振り返りながら  
全員でしっかりとチェック



仕上がった各ページの校正を読み合わせるための会議です。取材時のエピソードや感じたことを担当者が語りながら、記事を通して何を読者に伝えたいのかを確認しあいます。誤字・脱字も見逃さないように努力しています。後に取材先にも確認してもらい、支所の最終チェックを経て校了。



麻布地区総合支所



## みんなの 社会科見学

大人も子どもも一緒に  
見よう・学ぼう

1

ザ・AZABUは、編集委員による企画、取材、原稿作成、校正チェックまでの【企画・制作工程】は上に記したとおり。そして編集委員の手を離れ、後半の【印刷工程】に入る。今回、日本語版32号の印刷を、埼玉県さいたま市の廣済堂さいたま工場へ見学に向った。

## 印刷工場見学記

ザ・AZABUの印刷工程を学ぶ



#### 工場規模、印刷機の違い

さいたま工場は、敷地内に3つの工場がある。ザ・AZABU日本語版の印刷は、一番大きな第一工場で行われるとのこと。3万4300部と刷り部数が多いため、ロール紙(巻き取り紙)を用いた生産性の高い「輪転印刷機」で印刷される。

英語版は、第二工場のほうで印刷される。機械は1枚ずつ断裁された用紙を用いる「枚葉印刷機」を使用。小部数で高品質な印刷物に対応できる。日本語版と英語版とで、印刷の手法が異なることも初めて知ったのは、大きな収穫だ。

#### 【印刷工程】の第一歩はデータ化

印刷工程では制作した紙面を印刷データ化する「製版」→「刷版」が行われる。その後の、印刷本番のクライマックスシーンを見学することになった。

#### 大型輪転印刷機の始動から梱包まで

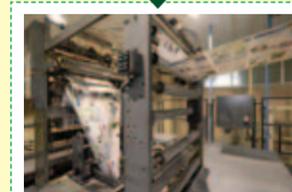
全長約30m以上ある大型輪転印刷機の工程に沿って移動し、仕上がる工程を間近で見学する。主な印刷工程は以下のとおり。



1 大きなトイレットペーパーのようなロール紙をセット。紙幅813mm、1巻700kgの紙を2つ使う。再生紙だ。



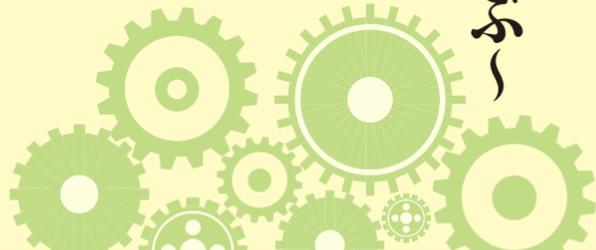
2 黒系K(ブラック)、青系C(シアン)、赤系M(マゼンタ)、黄系Y(イエロー)の4色のペースト状のインクを順番にかけ合わせながら印刷。表裏同時印刷だ。



6 折り加工と断裁。まるで巨大な機械織り機のように一気に紙面が吸い込まれ折られていく。



7 ベルトコンベアで完成品が次々と。この感動、編集委員全員に味わってほしいと思った。



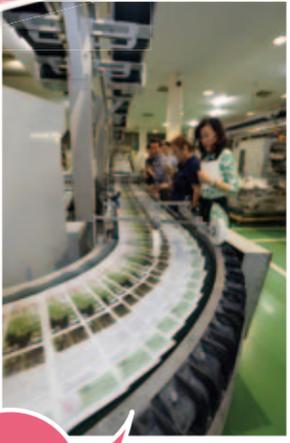
# きるまで

ザ・AZABUが創刊しては9年目。麻布地区の文化や歴史、地域で活躍している人たちにスポットをあてて、様々な情報をお届けしています。毎号、ガイドブックなどでは伺い知れないところまで、微に入り細に入り取材し、まとめています。編集委員は全員ボランティアで、麻布地区の在住・在勤者が中心。私たちの活動をご紹介します。

印刷

校了したあとは、発行を楽しみに待つばかり

最初の企画会議から約2カ月の日程を経て、印刷の工程に入ります。その間には、次の号の企画会議が始まります。



完成



### 各家庭にポストイン

港区シルバー人材センターのスタッフにより、順次、麻布地区内の各家庭に配付されます。（\*マンションによっては、管理組合の規定によりポストインされないケースもあります。ご希望の方は、麻布地区総合支所までご連絡ください）

### パソコンでも見られます

麻布支所のホームページでも、バックナンバーをVOL.3からPDFで見ることができます。  
<https://www.city.minato.tokyo.jp/azabu/index.html>

### 区有施設にも配置

港区役所や麻布地区総合支所、麻布地区内の東京メトロ駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、各いきいきプラザ等に置いてあります。

### 英語版も発行

麻布地区は区内でも外国人住民が多数。そこで、英語版も発行しています。日本語版発行後、約3カ月後に1000部発行され、日本語版と同じ区有施設、テンプル大学ジャパンキャンパスをはじめとする教育関連施設、大使館などに置いてあります。翻訳スタッフとの打ち合わせも、支所内にて編集委員が行います。



印刷工場を見学してきました！

探究心の尽きない私たちは、今回、印刷工場へ出向き、ザ・AZABUの印刷工程をレポートして来ました。下の「みんなの社会科見学」の記事もぜひご覧ください。

## ザ・AZABU沿革

### ●創刊

2006年、麻布地区総合支所スタートにあわせ「地域情報紙・創刊準備号」「ザ・AZABU創刊号」発行。同時に、区民参画による「麻布を語る会」発足。2007年1月20日、麻布を語る会の事業の一環として「ザ・AZABU VOL.2」が発行されました。

### ●名称

創刊準備号でタイトルを一般に募集し、14件の応募の中から「ザ・AZABU」が選ばれました。他には例えば「あざびあん」「みな10～9麻布」「麻布チイクな街と私」などユニークなものもあったようです。

### ●目的

麻布地区を「魅力あるまち」にするため、地域の情報を共有化し世代を超えたコミュニティの活性化をはかるための手段として、ザ・AZABUを制作しています。麻布のことをもっと知りたくなる、麻布で過ごす時間が楽しくなる、そんな紙面づくりを目指します。

### ●発行部数

3万4300部 年4回(3、6、9、12月予定)

## お仲間募集

私たちと一緒にザ・AZABUの活動をしませんか。詳しくはp.8をご覧ください。

(構成・文/田中亜紀)

### 工場見学を終えて

再生紙の印刷紙が、轟音と共に回り始める輪転機に勢いよく吸い込まれ、ものすごいスピードで紙が通過し刷り上がっていく。実に壮観な眺めだった。3万4300部の印刷がわずか1時間で終了する、というのに驚く。ベルトコンベアから完成品が流れ出てくると、思わず、歓声をあげてしまった。天地、左右、やさしく機械の手で整えられていく様子は、とてもかわいく思えた。手にすると生温かくしっとりしていて、感激した。

### 高性能な機械もかなわないマンパワーに脱帽

あらためて印刷機について伺った。日本では、30年前は8割がドイツ製だったが、今は日本製が上回っている。現在、廣済堂が使用の印刷機は日本のトップメーカーの製品で、概ね10～15年毎に新品と入れ替える。中古になった印刷機はアジアなど諸外国に輸出される。日本の技術はそれらの国々にとっては貴重な。グローバルな動きとザ・AZABUの紙面も連動していると知ると、嬉しさを感じる。

印刷機メーカーによると「大型印刷機の精度はロケットに次ぐ」そうだが、それでも「最後は人の眼に頼る」という話が印象的だった。この輪転印刷機はスタッフ2名で運用している。機械が動き出すと、途中でオペレーターは印刷された紙の色を見て細かくチェックし、操作パネルでM(マゼンタ)を5%追加、といった修正を施す。できるだけクライアントの要望通りの色に近づけるように調整するのが、腕の見せどころ。感覚をつかむのには、2～3年

かかる。また、500部ずつ梱包される際のチェックでも、必ずスタッフがパラパラと目を通す。すると眼の残像機能が働いて、ひとつでも違うもの、例えば、シワやヨレがあると認知できるという。そのようにして不良品を抜き取ってから、納品となる。人間にしかなし得ないことがあると知り、なぜかホッとする思いがした。

\*\*\*

編集会議が終わってから読者の手に届くまでの間には、日本最先端の印刷技術と工場スタッフの鋭意努力があったと、深く認識した私たち。これからもよりよい紙面づくりをしたいと、一同心に刻みつつ帰途についた。

ザ・AZABUの制作に関わる廣済堂の全スタッフの皆さんに、心から感謝を申し上げます。

ザ・AZABU誕生の瞬間に立ち会えて幸せでした。



(取材・文/大澤佳枝、高柳由紀子、田中亜紀、山下良蔵)

しながら、刷版を経た印刷データが、タブロイド版8ページあり。



3 180℃の熱風でインクを高温乾燥。高温が外に漏れないように遮断される。



4 20℃まで冷却。紙にシワが寄らないように、柔軟剤も用いられる。



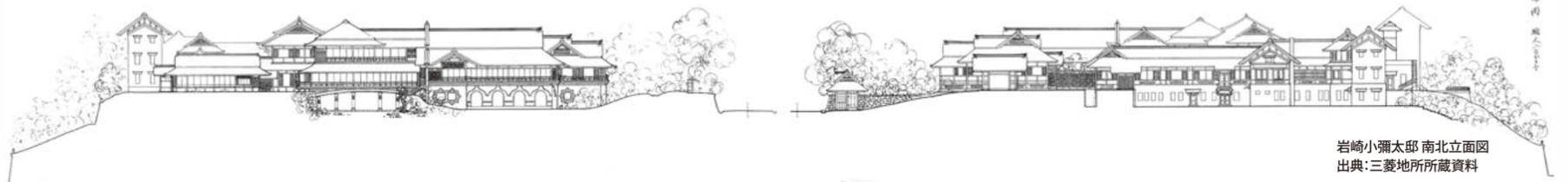
5 高性能カメラで、細かいシミや汚れの感知。さらに人の目での作業。オペレーターが、最終の色校正を見ながら、色味や汚れなどをチェックし修正、色調整をする。



8 500部ずつの梱包もあつという間。



9 集積。クレーンを使って集積されたザ・AZABUは、この後トラックで、港区に届けられる。



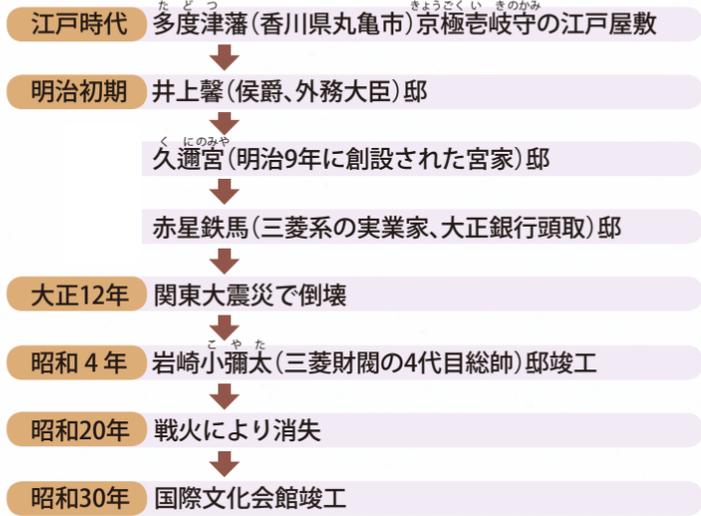
岩崎小彌太郎 南北立面図  
出典：三菱地所蔵資料

## 四時代受け継がれる思い

“海外に目を向ける”ことが大切である、という考え方も鳥居坂という土壌で育まれた思想のひとつであろう。現在の国際文化会館にもその思いは脈々と受け継がれている。しかし、その背景には数多の変遷があった。

### 大名屋敷から財閥の邸宅へ

現在、国際文化会館のある場所は、次のような変遷をたどる。



### 戦前のピークをなす建築と庭園、岩崎小彌太郎

岩崎小彌太郎は大江新太郎設計の和洋折衷の邸宅で、池は建物の下を通り中庭まで達していた。

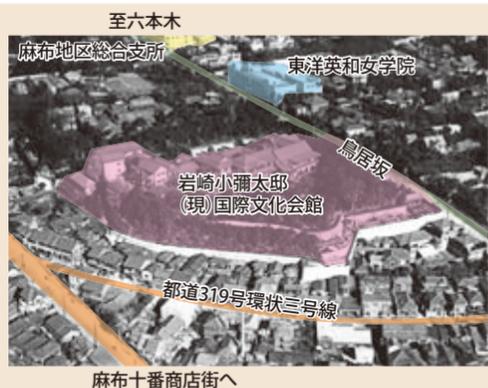
庭園は昭和5(1930)年、小堀遠州と並び賞される京都の作庭の名人七代目小川治兵衛(植治)に依頼し完成した池泉回遊式庭園。現在もその姿を残している。



昭和8(1933)年頃：岩崎小彌太郎  
写真提供：東洋英和女学院

### ～ちょっと確認～ 現在の位置との関係

鳥居坂の道幅は殆ど変化していないが、環状三号線は現在よりも細く、十番商店街への道路の方が広い。現在の街並みと比較すると大きく変化している様子を見ることができる。



麻布十番商店街へ

# 麻布 未来写真館 鳥居坂

数多の変遷、変わらない思い

3

### 近代建築と日本庭園との調和 国際文化会館

国際文化会館は、国際相互理解の増進をはかることを目的に設立された財団法人で、その建物は戦後国有地となっていた岩崎邸跡地の払い下げを受け、昭和30(1955)年に日本建築界の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の3氏の共同設計により建てられたものである。

昭和51(1976)年には前川國男の設計により改修と新館の増築が竣工。池辺に張り出した釣殿風の建物は平安時代の絵巻物風の様式を取り入れたもので、建物全体はこの庭との調和を図って建築されている。

日本建築学会賞を受賞した本館は、平成18(2006)年3月に「登録有形文化財」にも登録された。



平成22(2010)年：国際文化会館

### 岩崎小彌太の人物像について

明治に生まれ、激動の昭和初期の約20年間に三菱グループの企業理念を確立させた三菱本社4代目社長。敗戦直後の1945年12月に67歳で亡くなったが、現在の三菱グループの基礎を作った名社長という伝説のわりに知られることが少なく、いわば幻の大社長なのだ。



三菱史料館所蔵

彼は確固たる企業理念を胸に秘めた人物で、彼の唱えた「三綱領」は現代社会にも通用する、まさに特筆に値する社是であった。

- 所期奉公 「国家社会の公益を図るべし」
- 処事光明 「手段を選ばず術策を用いて巨利を博すような取引はするな」
- 立業貿易 「事業の根幹である対外貿易を忘れるな」

今日風に言い直せば「社会貢献」「フェアプレー」「グローバリズム」である。

※参考文献：三菱広報委員会発行「マンスリーみつびし」1999年8月号より抜粋

### 「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々を知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、「協働推進課地区政策担当」までお問合せください。

お問合せ 電話：03-5114-8812

## 麻布地区総合支所からのお知らせ

麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんとともに考え、ともに行動し、解決に取り組んでまいります。

### 港区基本計画・麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)

港区は、平成27年度から6年間の港区の目標と道筋を示す「港区基本計画(平成27年度～平成32年度)」を新たに策定しました。この基本計画は、全区的な計画である「分野別計画」と総合支所ごとに策定した「地区版計画書」で構成されています。

麻布地区においては、前計画に引き続き、検討の段階から区民参画の手法を取り入れて「麻布地区版計画書(平成27年度～平成32年度)」を策定しました。今後、実行段階でも区民の参画を得ながら、成果を検証していく予定です。

このコラムでは、本計画に盛り込まれている麻布地区の11の地域事業を3回に分けてご紹介していきます。

### ●麻布地区の地域事業について

#### 1 六本木安全安心プロジェクト

##### ◆事業内容

六本木を安全で安心なまちにするため、地域の方々と連携・協働して制定した地域独自ルール「六本木安全安心憲章」を周知し、浸透させる取組を実施します。そして、六本木地区の5つの主要な課題である「防犯」「環境美化」「路上喫煙」「道路使用」「営業活動」について、解決に向けた取組を進めていきます。



##### ◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 店舗、事業所への憲章の働きかけ
- キャンペーン・パトロールの開催(月1回)

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
憲章の推進	憲章の推進 (認証制度実施)	憲章の推進 (検証)	憲章の推進 (検証を踏まえた更なる推進策の実施)	憲章の推進 (検証・分析)	憲章の推進
事業費(千円)		2,294	3,710	3,400	9,404

#### 2 防災ネットワーク構築事業

##### ◆事業内容

事業者、防災住民組織、行政等が災害の発生時に連携を円滑に行うことが可能なネットワークづくりを育成・支援していきます。

##### ◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 防災ネットワーク会議の開催(年3回)
- 防災訓練、防災講演会



全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 70社	事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 35社 (年1回の訓練実施)	事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 50社 (年1回の訓練実施)	事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 60社 (年1回の訓練実施)	事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 70社 (年1回の訓練実施)	事業者防災ネットワーク 会議参加事業者 70社
事業費(千円)		3,003	3,140	3,140	9,283

#### 3 みんなでエコっとプロジェクト

##### ◆事業内容

企業・地域団体等と連携して、地域の子もたちが自然や生きものを「見る」「知る」「体験する」機会を創出します。

##### ◆今年度の主な取組(予定を含む)

- 飯倉片町地下横断歩道での絵画展示
- 有栖川宮記念公園でのワークショップの開催(11月3日(火・祝) ※下記参照)

全体計画目標 (29年度末)	現状 (26年度末見込み)	事業計画			
		27年度	28年度	29年度	計
事業本格実施 (7回)	—	事業内容の検討 試行実施 (1回)	事業本格実施 (3回)	事業本格実施 (3回)	事業本格実施 (7回)
事業費(千円)		605	820	820	2,245

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812

## 臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金 担当からのお知らせ

消費税の引上げ(5%から8%)による影響を緩和する措置として、「臨時福祉給付金」と「子育て世帯臨時特例給付金」を支給します。

### 対象者及び給付額

	臨時福祉給付金	子育て世帯臨時特例給付金
対象者	平成27年1月1日時点で港区に住民票がある人で、平成27年度分の区民税(均等割)が課税されていない人 ※区民税が課税されている人の扶養親族等、生活保護制度の被保護者は対象外です。	平成27年5月31日時点で港区に住民票がある人で、平成27年6月分の児童手当を受給している人 ※ただし、児童1人当たりの手当額が5千円の場合は対象となりません
給付額	給付対象者1人につき6千円	対象児童1人につき3千円

\*臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金の両方の対象条件に該当する場合は、2つの給付金とともに支給されます。

申請書受付期間 平成27年9月25日(金)～平成28年1月15日(金)  
※対象者には、平成27年9月24日(木)に申請書を発送します。

申請方法 申請書がお手元に届きましたら、必要事項を記入の上、添付書類とともに返信用封筒で返送してください。

### 直接持参される場合は、次の臨時受付窓口で受け付けます

- 芝地区総合支所 平成27年9月25日(金)～平成28年1月15日(金)
- 麻布、赤坂、高輪、芝浦港南地区総合支所及び台場分室  
平成27年9月25日(金)～平成27年11月30日(月)
- 受付時間 平日8時30分～17時(台場分室を除く各地区総合支所は、水曜日のみ19時まで窓口を延長)

### 公務員の子育て世帯臨時特例給付金の申請について

平成27年6月分の児童手当を受給している人には、勤務先から「子育て世帯臨時特例給付金申請書」が配布されます。受付期間内に区に申請してください。

お問合せ／保健福祉課臨時福祉給付金担当  
子ども家庭課子育て世帯臨時特例給付金担当  
電話／03-3578-2844・2845

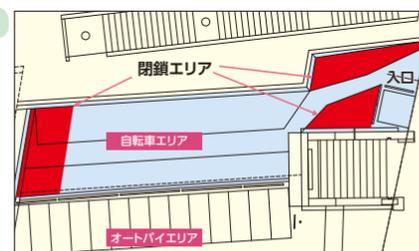
給付金に乗じた振り込め詐欺や個人情報の詐取に注意してください。

## 乃木坂暫定自転車等置場が一部閉鎖します

乃木坂暫定自転車等置場は、東京都による「南青山陸橋の耐震補強工事」実施に伴い、下記の日程で一部閉鎖します。期間中、閉鎖区画に駐車している自転車は、他の空きスペースに移動させる場合がありますので、ご了承ください。工事期間中は大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

期間 平成27年8月10日～平成27年12月20日(予定)

区画



### ●乃木坂暫定自転車等置場について

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当 電話／03-5114-8815

### ●南青山陸橋の耐震補強工事について

お問合せ／東京都第一建設事務所補修課橋りょう維持係 電話／03-3542-3726

## 参加者募集！！

### 自然観察&エコな木工ワークショップ in 有栖川宮記念公園

麻布地区総合支所では、地域事業「みんなでエコっとプロジェクト」を実施しています。今年度は有栖川宮記念公園で子どもたちを対象に「自然観察」と「木工ワークショップ」を行います。

日程 11月3日(火・祝)第1回:午前10時30分～正午  
第2回:午後2時～3時30分 ※各回同一内容になります。

場所 有栖川宮記念公園 ※小雨決行・荒天中止

対象 5歳～小学6年生(※保護者同伴必須)

定員 各回15名(先着順)

申込期間 10月1日(木)～10月30日(金) 電話でお申込みください。

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当  
電話／03-5114-8815

【地域事業】  
みんなでエコっと  
プロジェクト

# 港区麻布地区総合支所だより



## 平成27年度港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します ~自助・共助意識を高めましょう~

**日時** 平成27年10月18日(日)午前9時30分~11時30分(小雨決行)  
※天候により中止となる場合があります。当日は「みなとコール 03-5472-3710」にお問い合わせください。

**場所** 港区立六本木中学校校庭及び体育館(六本木6-8-16)  
※参加された方には防災関連の記念品をプレゼントします。(数量に限りがあります。)



### 主な訓練内容

#### 外国人向け防災訓練ツアー

麻布地区に住む外国人へ防災意識を高めてもらうために、英語通訳・区職員同行の防災訓練ツアーを実施します。(要申込み)

#### ライフライン・事業所 防災展

ライフライン事業者や民間事業者を招き、防災に関する様々な展示や啓発品の提供を行います。

#### SNS活用訓練

Twitter等のSNSを活用した訓練です。登録・使い方を説明後、主に情報の発信確認を体験する訓練です。港区防災アプリの使い方も説明します。今年度は校庭で実施する訓練をTwitterを用いて、訓練状況の発信確認をします。

### 外国人の皆さんの参加も募集しています!

「もし、大地震が発生したら、どんなふうに行動したらよいかわからない。」「被害を最小限にするために、日頃からどんな準備ができるのか知りたい!」港区総合防災訓練(麻布会場)では、皆さんが抱える災害に対するこのような不安を解消するため、英語通訳付きで会場内の訓練をご案内します。いざという時に備えて、地域の皆さんと防災に関する情報や知識を共有してみませんか?

**内容(予定)** 起震車体験訓練、煙中避難訓練、応急救護訓練、初期消火訓練、炊出し訓練(試食あり)、救助資器材取扱訓練、防災情報コーナー等

※参加者には記念品を差し上げます。

**参加費** 無料(事前申込必要)

**申込期限** 平成27年10月6日(火)

**申込方法** (1)氏名(2)住所(3)電話番号(4)日本語対応の可否(5)その他特記事項を電話かFAXでお申込みください。

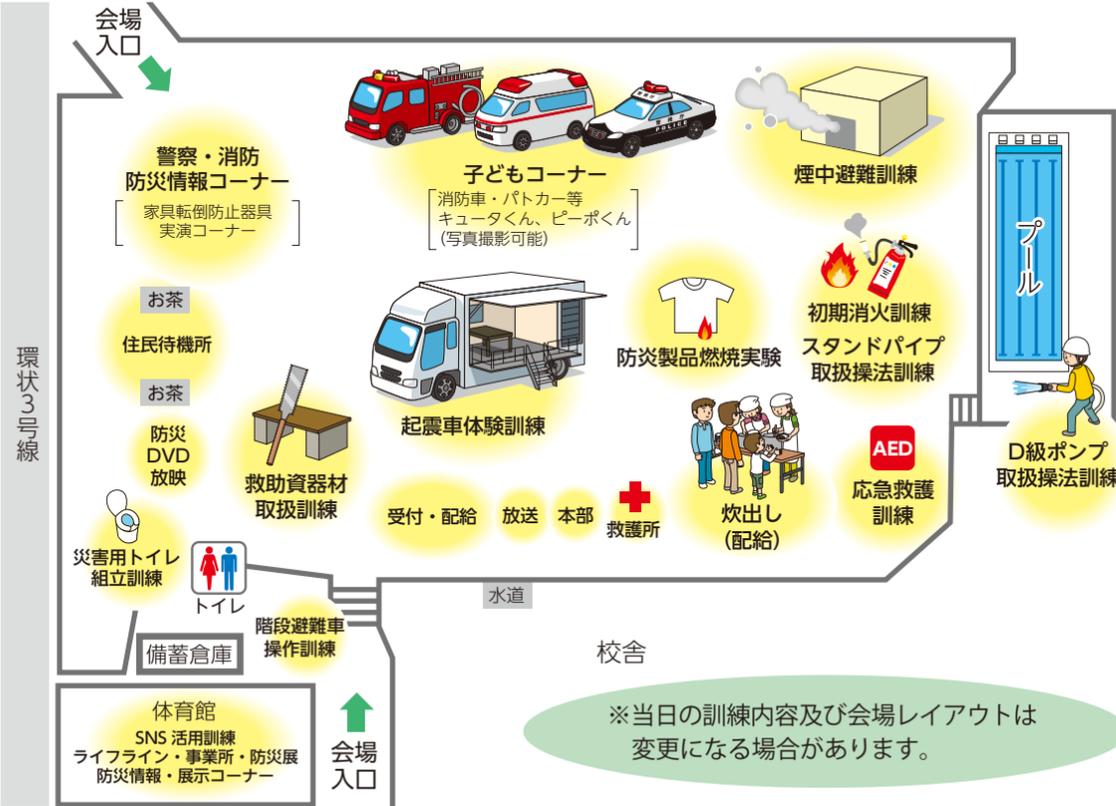
**電話/みなとコール 03-5472-3710**

(日本語/英語対応可能)

(受付時間:午前9時~午後5時)

**ファックス/麻布地区総合支所協働推進課**

03-3583-3782 (日本語/英語対応可能)



※当日の訓練内容及び会場レイアウトは変更になる場合があります。

他にも、初期消火訓練や応急救護訓練など、様々な訓練を実施します。

地震などの災害時においては、自らの命は自らで守る「自助」、地域住民が助けあう「共助」が重要となります。今後発生する恐れのある「首都直下型地震」に備えて、防災に関する知識・意識を改めて高めていただくために、是非ともご参加ください。

**お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課 電話/03-5114-8802**

## 「六本木安全安心憲章」の取組に関するご案内



### 六本木安全安心憲章

賑わい綺麗なまち六本木を目指して

平成25年7月23日に、六本木地区安全安心まちづくり推進会議において「六本木安全安心憲章」(以下、憲章)が制定されました。この憲章は、六本木のまちの安全・安心に向けた「シンボル」となる六本木地区の独自ルールで、六本木が目指すまちの姿を宣言するとともに、六本木のまちですべての人が守るべきまちのルールを示しています。

●憲章の内容は、港区公式ホームページからご参照いただけるほか、麻布地区総合支所協働推進課窓口でも全文を配布しています。

**「六本木安全安心憲章」については、こちらから**  
港区公式ホームページ <http://www.citu.minato.tokyo.jp/>

六本木安全安心憲章

検索



### 「六本木安全安心憲章」に賛同していただける店舗・事業所等を募集中!!

区では、憲章を周知する取組の一環として、港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度を実施し、憲章に賛同していただける店舗・事業所等を以下のとおり募集しています。

#### ●募集概要

**対象** 六本木地区(六本木3~7丁目及び赤坂9丁目七番)に主として立地または活動する店舗・事業所等。

**申込** STEP 1 憲章の趣旨、内容等を港区公式ホームページなどで確認。

STEP 2 賛同書を麻布地区総合支所協働推進課窓口又は港区公式ホームページから入手。

STEP 3 賛同書に必要事項を記入し、麻布地区総合支所協働推進課へ持参又は郵送により提出。

憲章に賛同した店舗・事業所等である「賛同事業所等」として、店舗、事業所等の名称を港区公式ホームページや地域情報誌等に掲載されます!

※「賛同事業所等」には、区から「認証」を受けるための認証申請書を一齐に送付します。認証申請書提出後、審査を経て、区から「認証」されると、認証状と認証ステッカーを交付するとともに、名称と活動内容等を港区公式ホームページや地域情報誌等により情報発信します。

**お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課 電話/03-5114-8802**

## ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください



ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課へ。

●電話/03-5114-8802 ●FAX/03-3583-3782

## 編集委員を募集しています

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからご覧になれます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

### 編集後記

今回初めて、ザ・AZABUが完成するまでの印刷工程に立ち会えて、とても勉強になりました。私たちが一生懸命取材して書き起こした記事が、沢山のスタッフに支えられて出来上がっていく過程を丸ごと見ることが出来ました。改めて皆様に感謝です。今後も和気あいあい進む編集会議、普段はお目にかかれない大使のインタビュー、気になる歴史を協力し合って探索したり、編集に参加するって楽しいですよ。書くことが苦手、という方も、取材に立ち会うだけでも大丈夫。もっと気軽な気持ちで、この活動にぜひご参加して頂けたらと思います。自分の知らない、麻布・六本木の発見ができますよ。(高柳由紀子)

※32号の「麻布びと」キャプション中、「近衛秀麿」は正しくは「近衛文麿」でした。「麻布の軌跡」参考文献中、「羽田美智子」は正しくは「羽田美也子」でした。また、「麻布未来写真館」本文中、「彼は千代田生命、千代田火災等の役員をつとめた人物である。」の内容は誤りでした。お詫びして訂正いたします。

### 「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前7:00~午後11:00 ※英語での対応もいたします。

**電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752**

**Eメール/info@minato.call-center.jp**

“Minato Call” information service  
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.  
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp

### ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内  
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布ありす、麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等  
●本誌掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief	田中亚紀
Sub Chief	高柳由紀子
Staff	出石供子 寺尾周祐 大澤佳枝 森 明 大村公美子 山下良蔵 折戸桂子 渡辺久剛 田中康寛
Junior Staff	足立一騎 原野雅也 齋藤裕真